

# いにしえの名張

令和4年7月30日 第41回三重県埋蔵文化財展

「いにしえの名張」関連講演会（第1回）

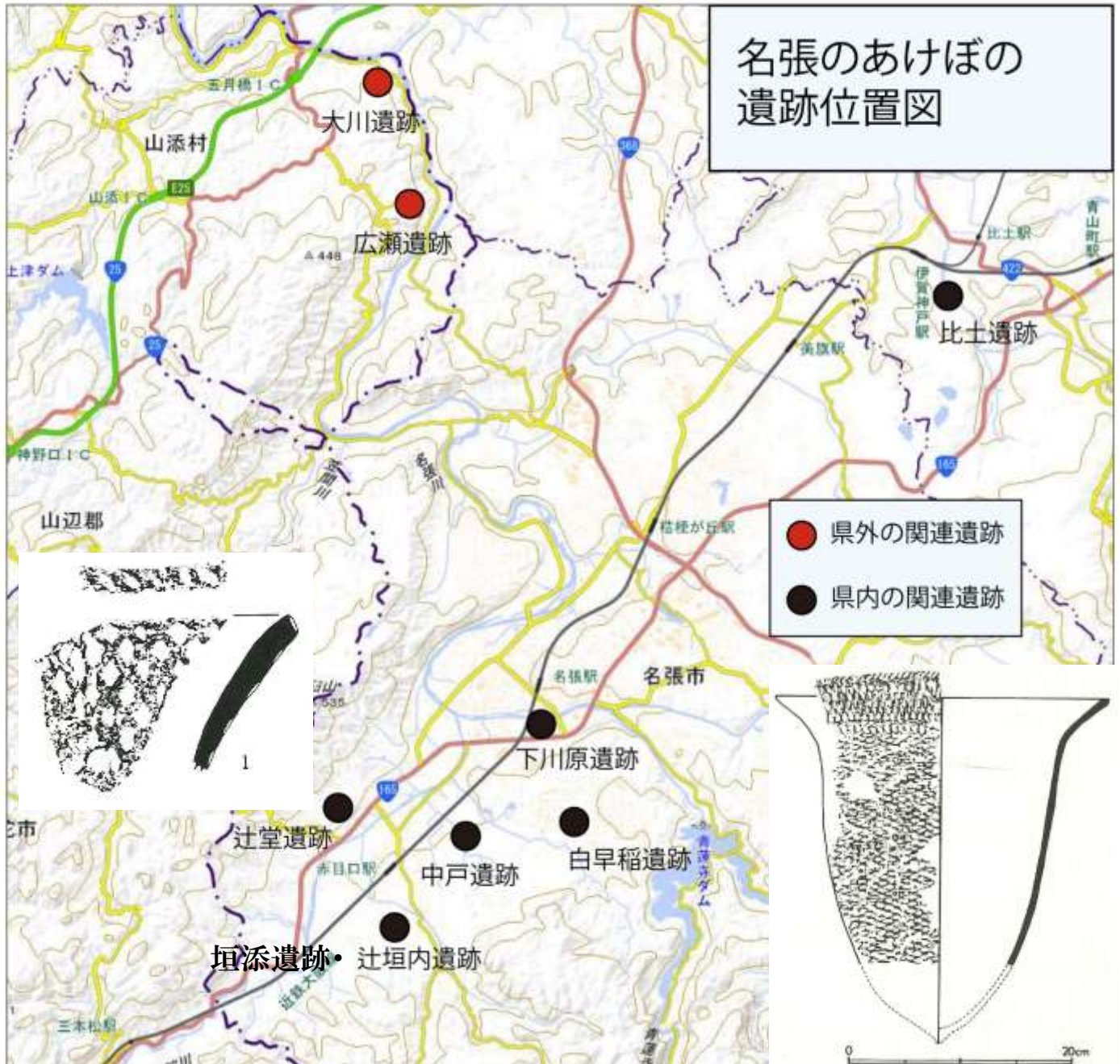
三重県埋蔵文化財センター 穂積 裕 昌

## 名張のあけぼの

地理院地図  
GSI Maps

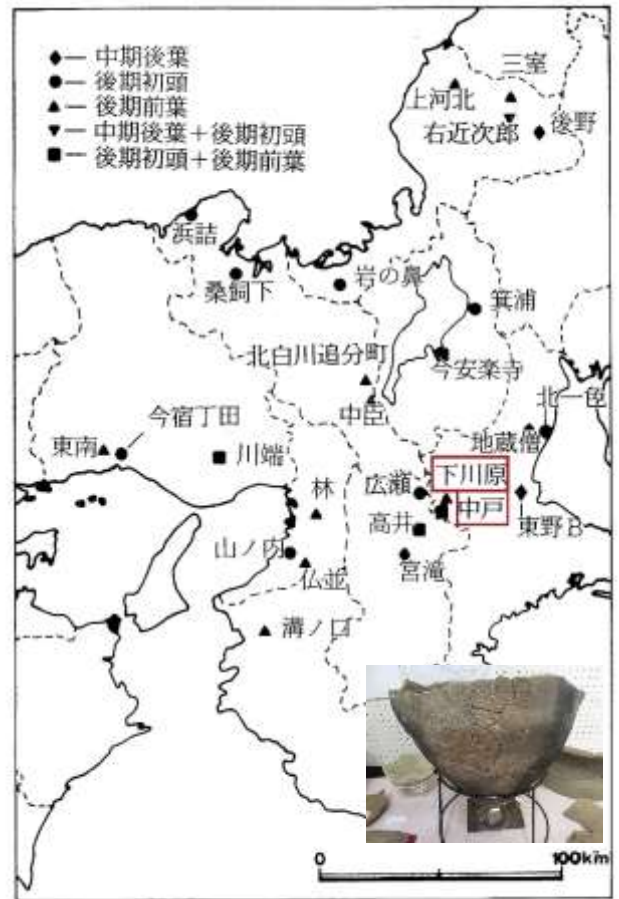
「電子地形図25000(国土地理院)を加工して作成」

(以下、地図類は同じ)



- ・名張市域では、旧石器時代の遺物は未確認
- ・名張市最古の遺物は白早稲遺跡出土の有茎尖頭器
- ・辻垣遺跡や薦生遺跡では、縄文時代早期の押型文土器が出土
- ・名張川下流の奈良県山添村では、縄文時代草創期の遺物が桐山和田遺跡、北野ウチカタビロ遺跡などから出土、同じく山添村の大川（おおこ）遺跡は押型文土器が多数出土

山添村大川遺跡出土土器



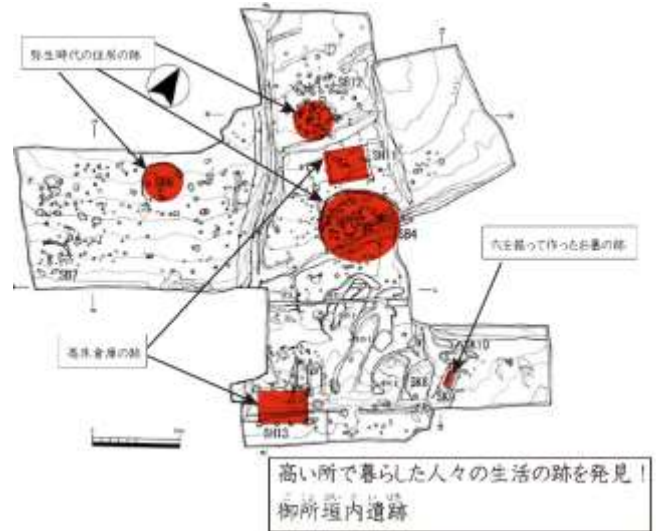
千葉直ら1989「近畿地方出土の埋没土器について」より引用「昭和61年度遺跡発掘整備事業地域 埋蔵文化財発掘調査報告1」三重県教育委員会

辻垣内遺跡 縄文中期深鉢（船元・里木式系）  
三重県を代表する縄文時代中期の土器のひとつ！



中戸遺跡出土縄文時代後期土器（奈良県山添村広瀬遺跡でも同じような土器が出土）





人参峠遺跡遠望、弥生時代前期の土器が出土  
高所に営まれた高地性集落

御所垣内遺跡

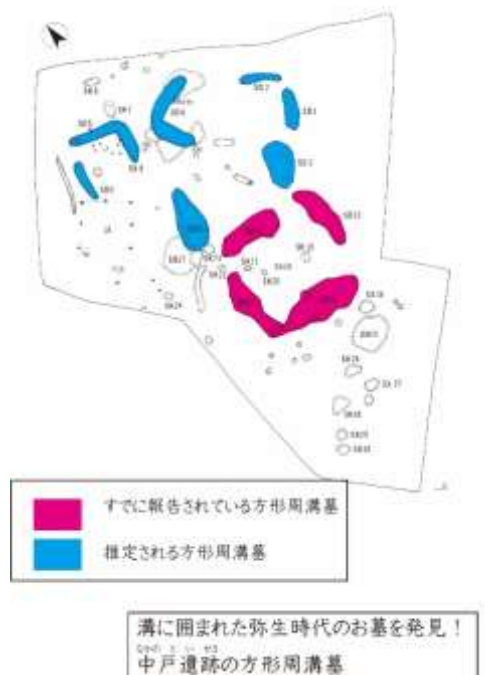


弥生時代中期の御所垣内遺跡も安部田の丘陵端部に位置し、高地性集落の様相

- ・ 竪穴建物 4、掘立柱建物（倉庫か） 1、土壙墓などがあり、237 点もの石器が出土
- ・ 石器のうち、石鏃が 142 点と約 60%を占めるほか、石庖丁や儀礼用の打製石剣も出土。石鏃の多くは、大阪・奈良県境の二上山から産するサヌカイト製。石器を作る際に出る剥片も多数出土し、ここで打製石器（石鏃など）を製作したことが窺えるが、木材伐採・加工のための石斧は 4 点と少ない

中戸遺跡では、弥生時代中期の方形周溝墓を確認

- ・ 報告書で方形周溝墓とされたものは 1 基だけだが、他にも方形周溝墓と推定できるものがあり、5 基程度は存在か

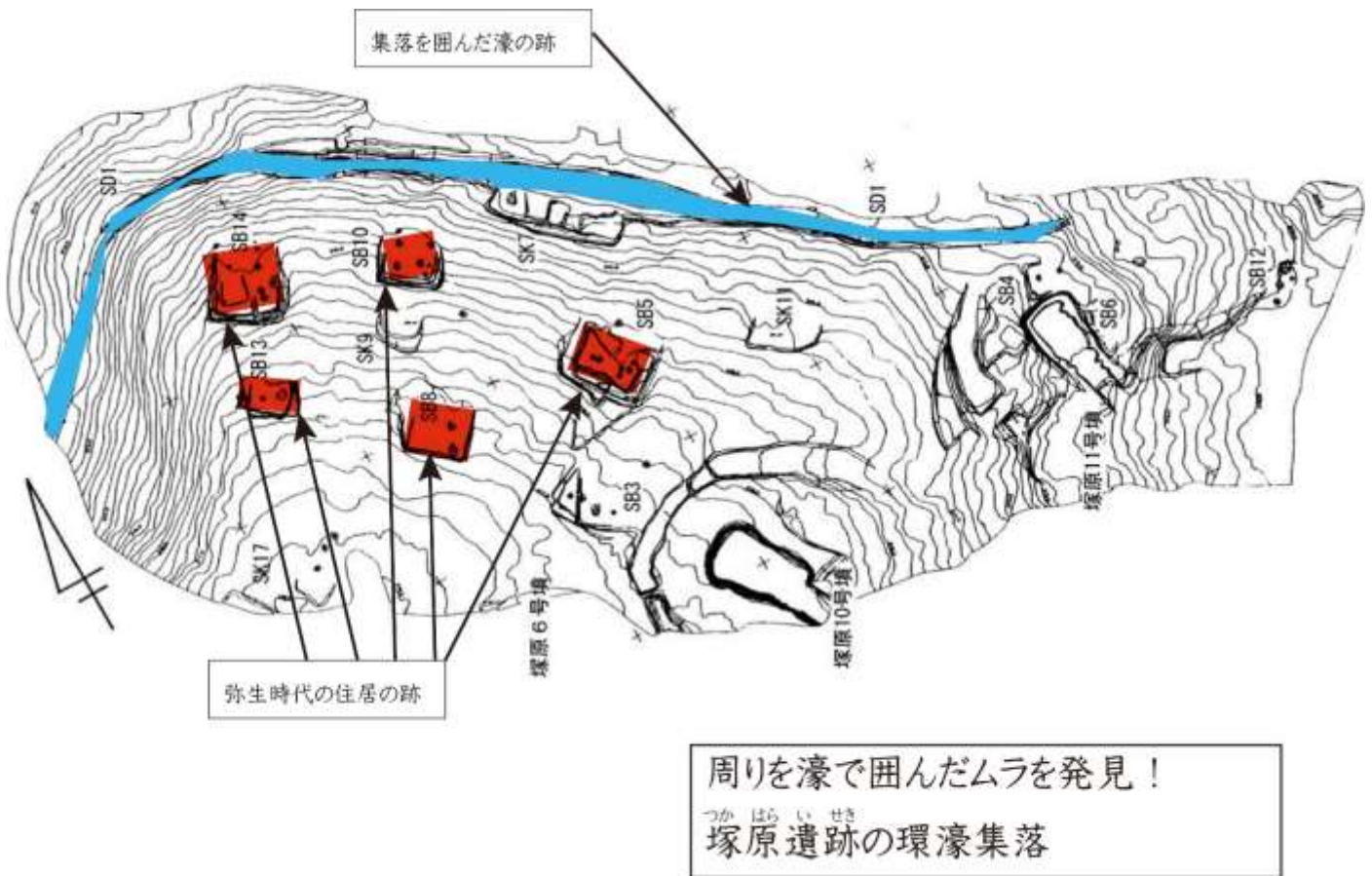


溝に囲まれた弥生時代のお墓を発見！  
中戸遺跡の方形周溝墓



### 下川原遺跡の遺構配置

- ・名張川河畔に所在する下川原遺跡は、名張を代表する弥生時代中期集落
- ・中央に集落域、小さな谷などで画されたその東西に方形周溝墓群（墓域）をもつ
- ・出土した土器は、東海系中心から、近畿系中心に移行していく

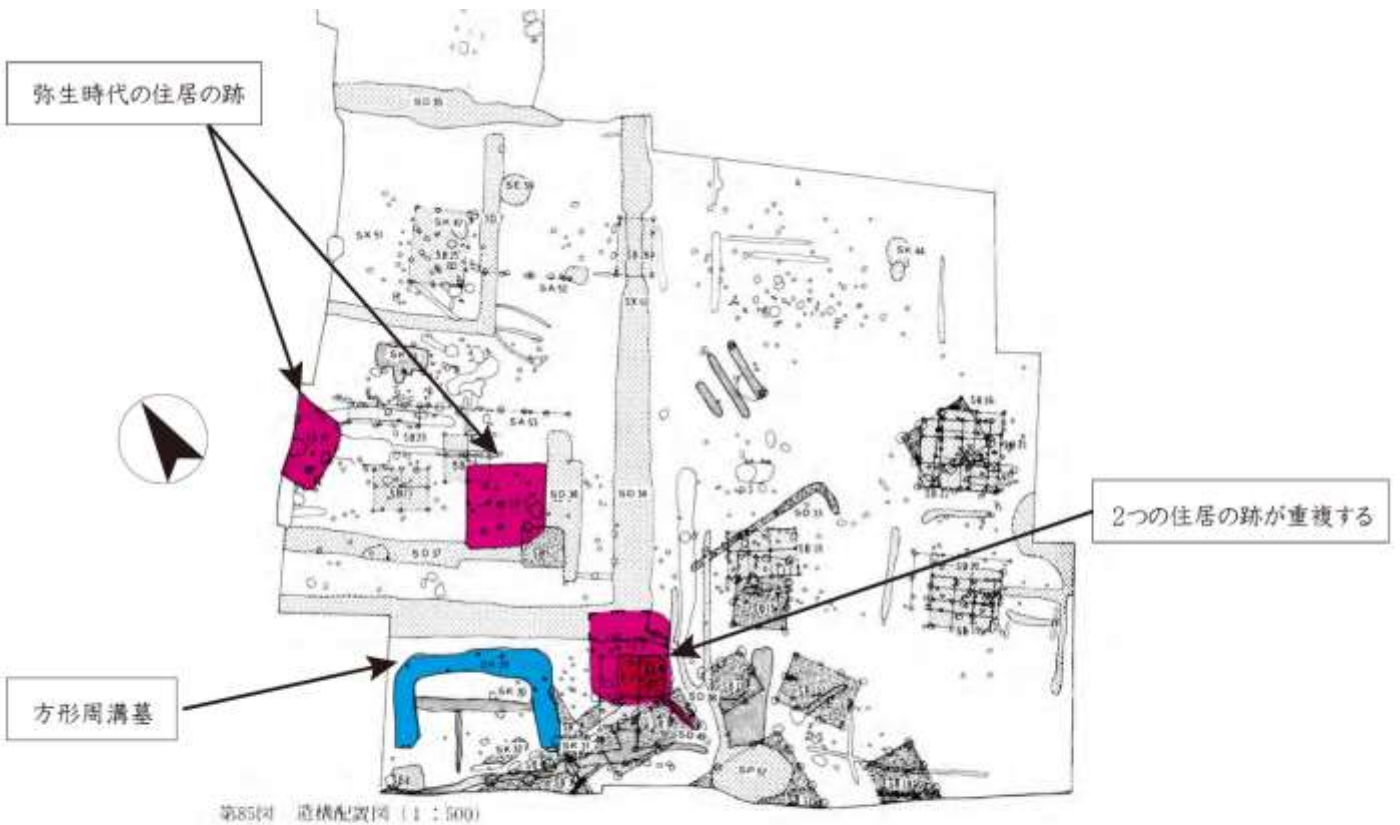


### 塚原遺跡は弥生時代後期の環濠（壕）集落

- ・弥生時代環濠の確認は、名張市では塚原遺跡が初（県内では四日市市大谷遺跡や永井遺跡、松阪市村竹コノ遺跡などでもあり）
- ・塚原遺跡は、一方で低地部との比高が 30m ある高地性集落でもある

### 観音寺遺跡は、弥生時代後期・古代・中世（鎌倉時代と戦国時代）の遺構が重複する複合遺跡

- ・弥生時代は、竪穴建物 4 棟、方形周溝墓 1 基を確認
- ・方形周溝墓からは、弥生時代後期土器が多数出土、長頸壺や高坏、広口壺など近畿系の特徴強い。一方で石器はほとんどなく、弥生時代後期からの鉄器社会への移行を窺わせている



弥生時代から続く生活の跡を発見！  
 観音寺遺跡



↑ 観音寺遺跡出土土器

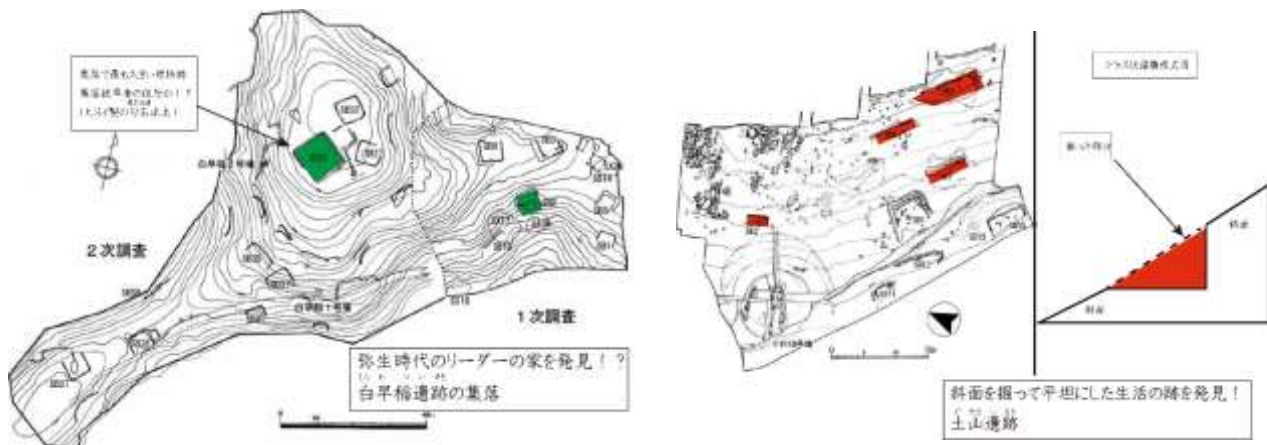
名張市出土の手焙形土器

蔵持黒田遺跡全景

- 蔵持黒田遺跡では 30 個以上の手焙形土器出土
- 手焙形土器の用途は不明だが、祭祀に関係か
- 手焙形土器は弥生後期～古墳前期の土器



- 現在、百合が丘団地のある前山丘陵は、かつては名張を代表する古墳時代前期集落が展開
- いわゆる高地性集落は、弥生時代に特徴的な集落形態だが、これら集落は古墳時代前期にあって高地性集落の様相をとる（人参峠遺跡などでは弥生時代前期の遺物もあり）
  - 白早稲遺跡では、最高所の大形竪穴建物からヒスイ製勾玉も出土
  - 土山遺跡は、集落として機能した後、古墳時代中期には祭祀遺跡として利用された

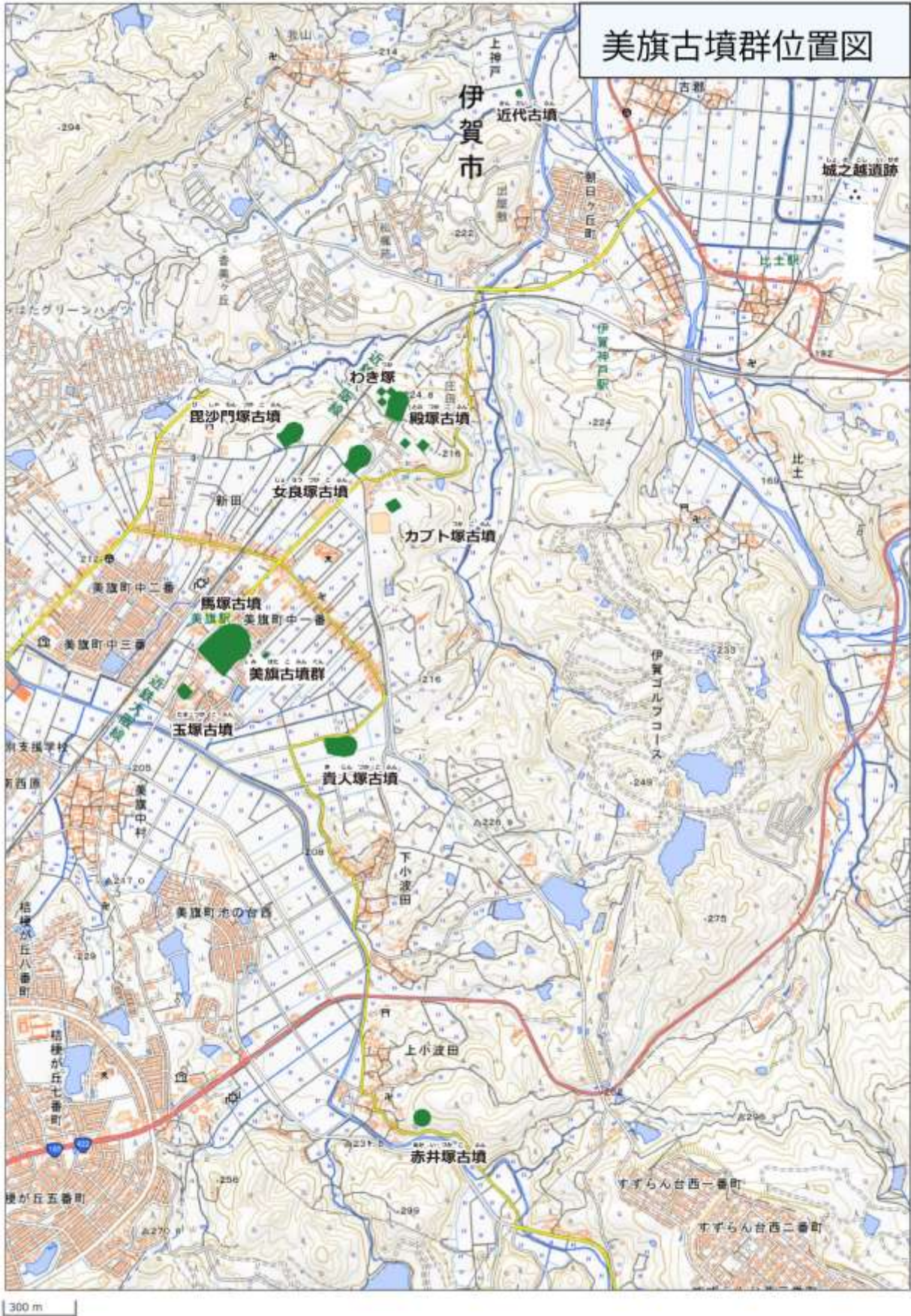


白早稲遺跡出土のヒスイ製勾玉（右）

# 美旗古墳群の時代

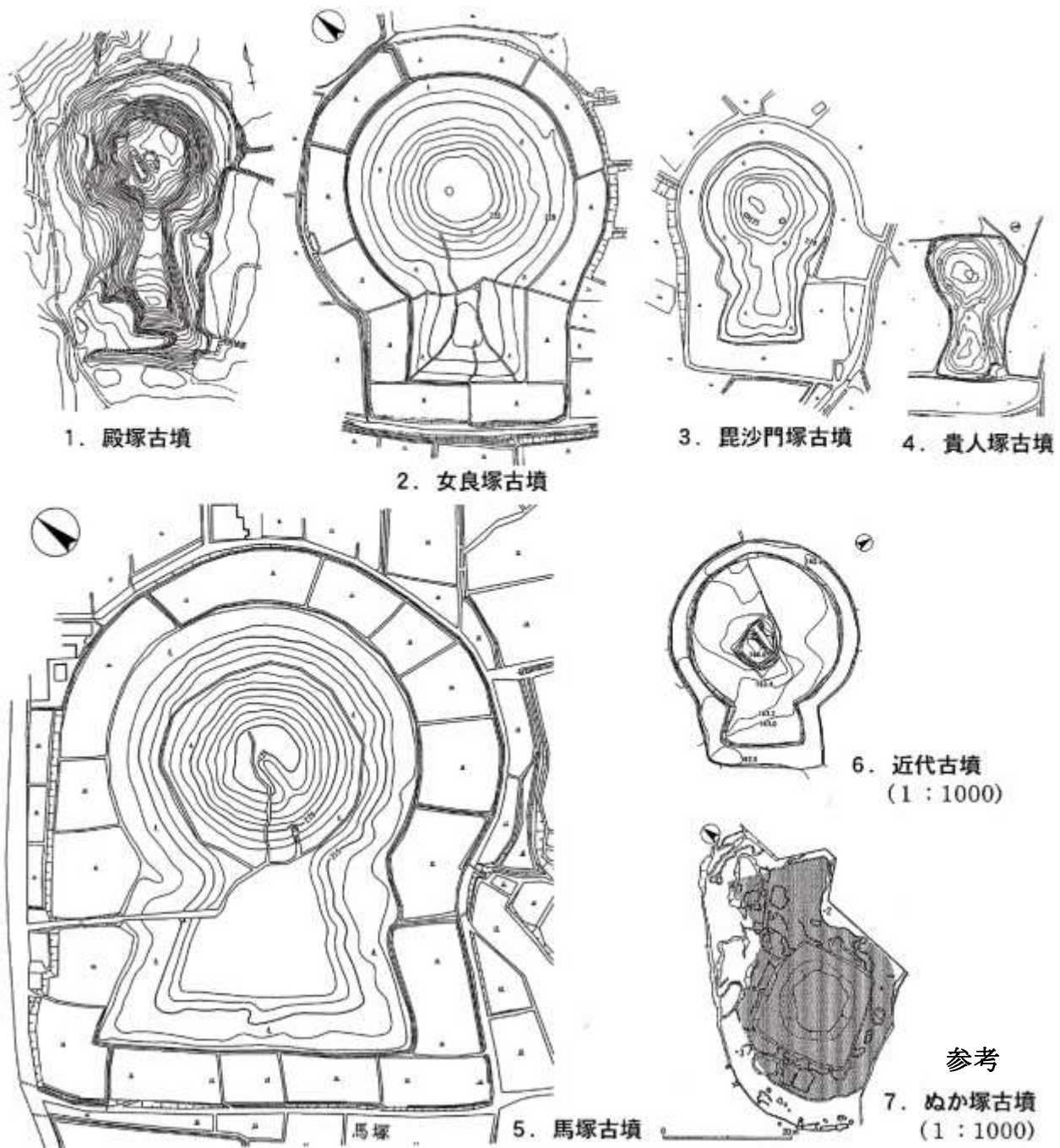
地理院地図  
GSI Maps

「電子地形図25000(国土地理院)を加工して作成」

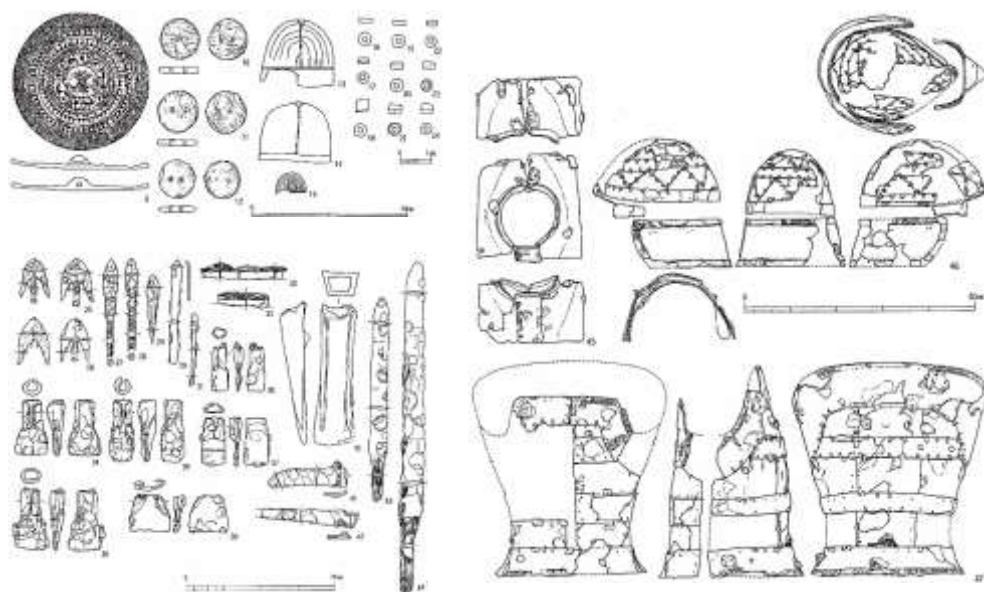


美旗古墳群は5基の前方後円墳（帆立貝形含む）を中心に、北の近代古墳、南に赤井塚古墳が分派

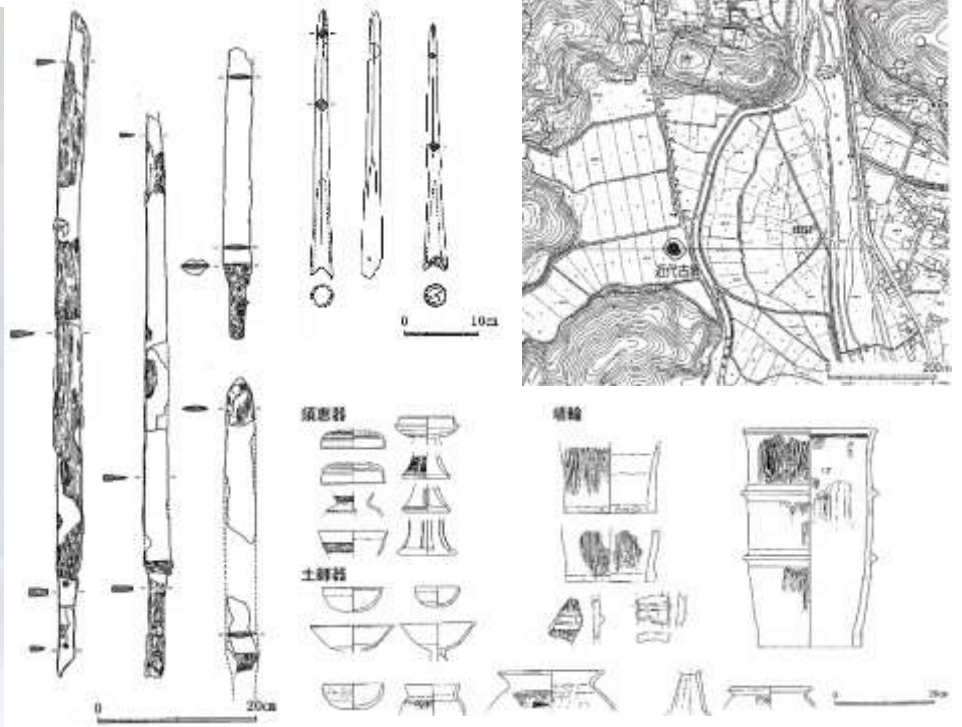




美旗古墳群の諸古墳（参考のぬか塚古墳は伊賀市市部所在の帆立貝形古墳）



わき塚 1 号墳出土遺物



### 近代古墳出土遺物

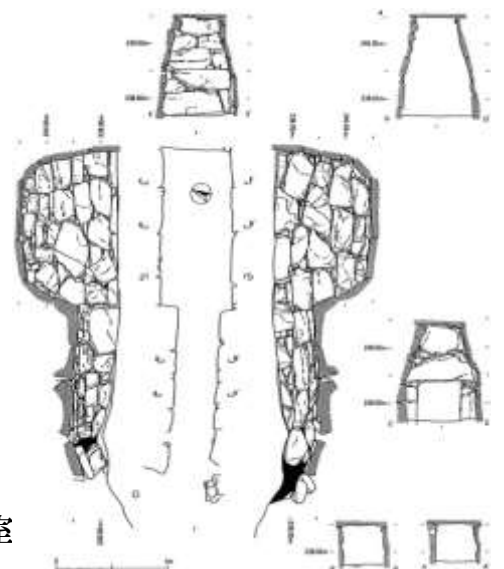
- 美旗古墳群は、名張市を中心に、一部伊賀市にも及ぶ古墳群
- 名張市が中心とはいえ、かつての郡では名張郡ではなく、伊賀郡に所在
- 中心となる5基の前方古円墳は、時代順に、殿塚 (92m、県内6位) ⇒女良塚 (100m、県内5位) ⇒毘沙門塚 (65m) ⇒馬塚 (142m、県内2位) ⇒貴人塚 (55m)
- このうち女良塚、毘沙門塚、馬塚の3基が前方部が短く低い帆立貝形傾向をもつ  
(後円部直径を八等分した際の1等分の長さを1区とした場合、馬塚と貴人塚は5区だが、女良塚と馬塚は3区、毘沙門塚は4区、北に分派した近代古墳も2区)
- 美旗古墳群で発掘調査された古墳は少ないが、殿塚古墳の陪墳 (随伴する小古墳) のわき塚と近代古墳は主体部が発掘されており、豊富な武器副葬が特徴
- 貴人塚古墳は周壕のみ調査されており、6世紀代の須恵器と埴輪類が出土
- 女良塚古墳は過去に遺物が採集されており、後円部上から家形埴輪が出土 (美旗市民センターにて展示中)
- 赤井塚古墳は、前方後円墳が築造されなくなって以降の円墳だが、伊賀を代表する大型横穴式石室墳。美旗古墳群の後裔か。



女良塚古墳の家形埴輪



赤井塚古墳の石室

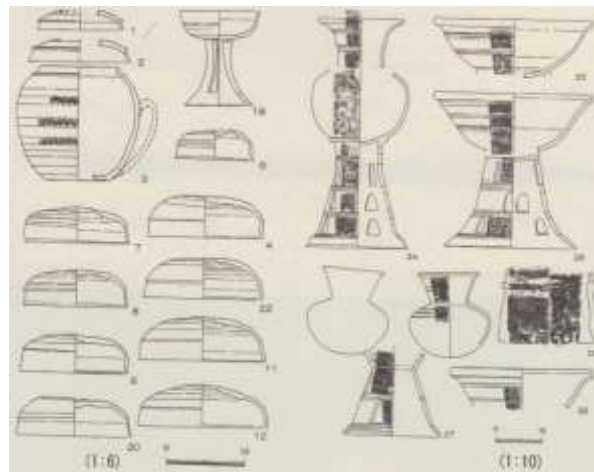
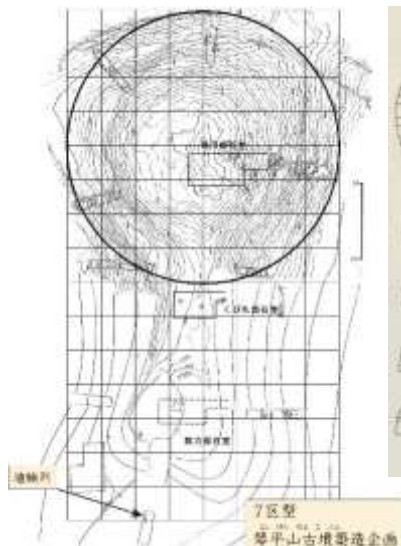


## 名張郡の前方後円墳と主要古墳・遺跡



伊賀4郡のなかで、唯一前方後円墳の築造が6世紀代に下るのが名張郡

- ・ただし、琴平山古墳や鹿高神社1号墳は、それまでの伊賀の前方後円墳にはなかった前方部が長いという特徴をもつ（琴平山；7区、鹿高神社1号墳は6区）
- ・琴平山古墳では、銀象嵌大刀や最新式の冑、それに朝鮮半島からの渡来品である陶質土器なども出土。70mの墳長も、6世紀代に限れば美旗の貴人塚を凌いで伊賀最大の大きさを誇る



琴平山古墳出土遺物



- ・根冷4号墳、長屋八つ塚古墳などでは、ハマグリなど海産貝を須恵器坏身・蓋に容れた貝類副葬が存在



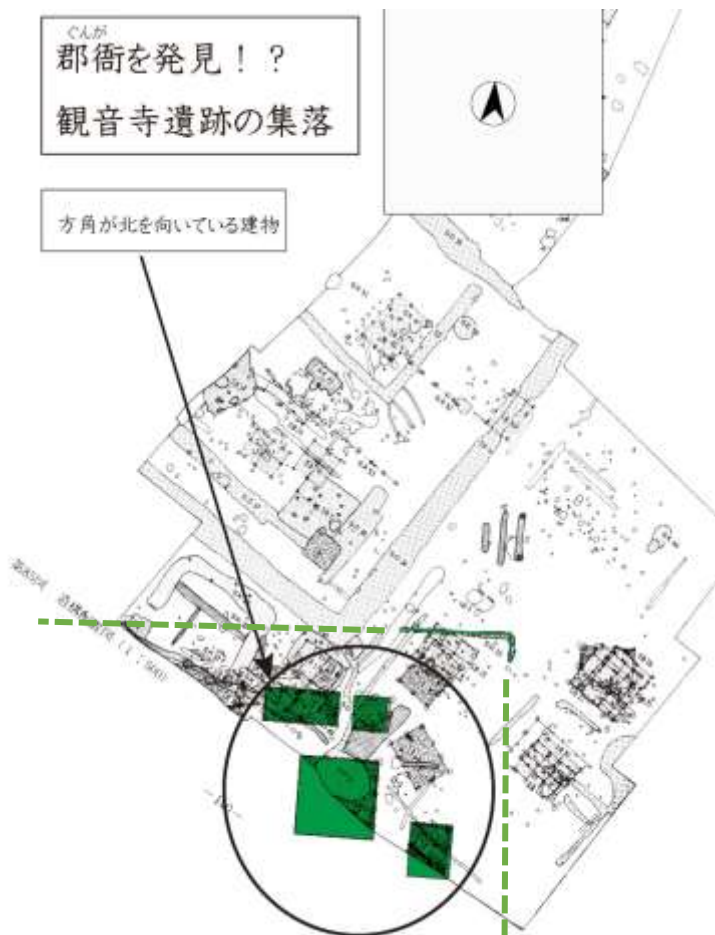
## 東国への回廊

地理院地図  
GSI Maps

「電子地形図25000(国土地理院)を加工して作成」



- ・名張は、壬申の乱で大海人皇子と鸕野讃良皇女（後の天武天皇と持統天皇）が当地を駆け抜け、また持統の伊勢行幸、三河行幸、聖武天皇の伊勢行幸の際も当地を通過した
- ・『日本書紀』によると、壬申の乱で大海人皇子の軍は、「隠駅家」（名張郡家か）を焚いた後、「名墾横河」に至る。この場合、名張郡家は名張川よりも以南にあったこととなる
- ・奈良時代の郡家候補となるのが、観音寺遺跡、さらに古い時代は黒石遺跡も候補
- ・鴻之巣遺跡にも大形の古代建物があるが、古代豪族・夏見氏の居宅か
- ・伊賀国には、各郡に古代寺院が1寺院ずつ存在するが、名張郡に建立されたのが鴻之巣遺跡の東側に造営された夏見廃寺



観音寺遺跡の遺構配置（奈良時代）



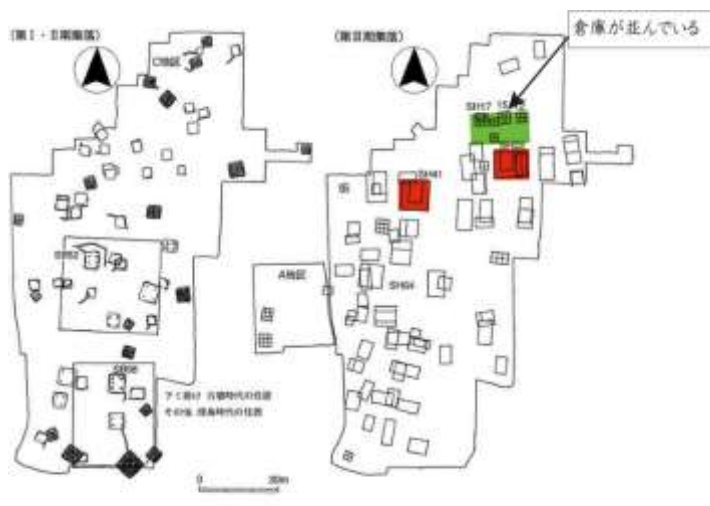
観音寺遺跡を南から望む



観音寺遺跡出土遺物（奈良時代）



溝と壁に囲まれた建物の跡を発見！  
黒石遺跡



規則的に並んだ大型建物跡を発見！  
鴻之巣遺跡

- ・昨年度と今年度発掘する薦生遺跡は、平城宮から伊勢神宮へ至る際の最短ルート上に存在
- ・東西10間（約30m）×南北2間（約6m）以上の長舎建物は、当時の道路との関係を想起させ、奈良時代という所属年代を考えると聖武天皇の行宮であった可能性も浮上する



南側と東側を蛇行する名張川に、北側と西側を山塊に画された薦生の立地



薦生遺跡の大型建物



山間の大寺院・奈良県山添村毛原廃寺 ↑ →



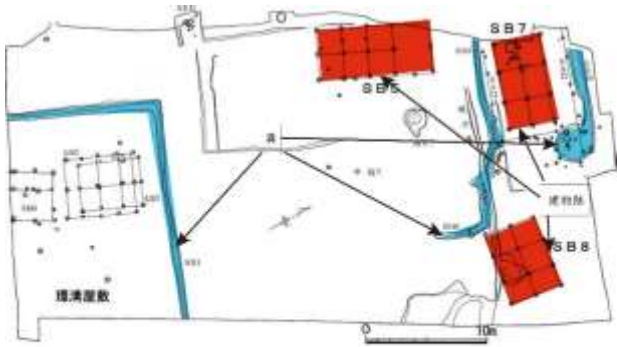
## 黒田荘と悪党の時代

地理院地図  
GSI Maps

「電子地形図25000(国土地理院)を加工して作成」



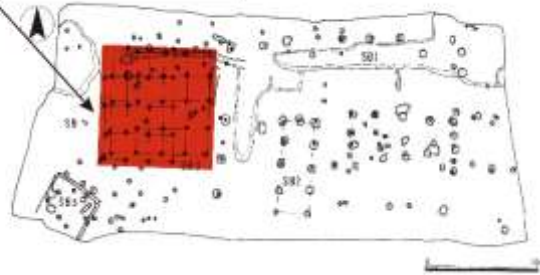
- ・黒田荘の母体となった板蠅杣は、奈良時代に孝謙天皇により勅施入された「伊賀国名張郡板蠅杣」とされてきたが、近年の学界の通説では、これを11世紀に東大寺が自己の土地権益を主張するため偽作したものとする
- ・本来の板蠅杣は、名張川支流の笠間川よりも西側の丘陵を指したらしい
- ・しかし、東大寺は、寺領の拡大を目指し、笠間川よりも東側（右岸域）、さらには丘陵を超えた伊賀国名張郡の宇陀川（名張川支流）左岸域へも進出した。これが、黒田本荘となる。
- ・東大寺はさらに宇陀川右岸域への進出も図り、伊賀国司・名張郡司らとの抗争を経て、永享4（1174）年、宇陀川以東の中村・矢川の自領化を成し遂げた（黒田新庄）。
- ・しかし、黒田荘民は、鎌倉時代を通じて成長し、東大寺に抵抗する「悪党」として史上に登場するようになる
- ・薦生は、10世紀、藤原朝成（あさひら）が薦生牧を領したとする記録があり、薦生牧を領有をめぐっても朝成と東大寺の構想があった。



溝によって区画された建物跡を発見！  
原出遺跡



大型建物が何度も建て替えられている



黒田荘時代の大型建物跡を発見！  
下垣内遺跡



### 糸川橋遺跡の青磁・貼花双魚文鉢

- 平安時代から鎌倉時代にかけての宇陀川流域の諸遺跡は、何らかのかたちで黒田荘に関係か
- 下垣内遺跡の大型建物は時期的に鎌倉時代で、黒田新荘の時期と重なる
- 蔵持の原出遺跡は、築瀬荘に関係か
- 赤目の垣添遺跡は、瓦なども出土しており、黒田新荘内の有力遺跡だった可能性がある





**天正伊賀の乱と名張**

地理院地図  
GSI Maps

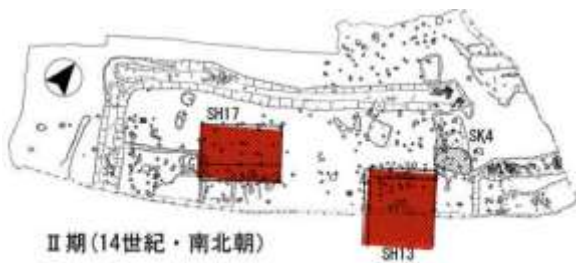
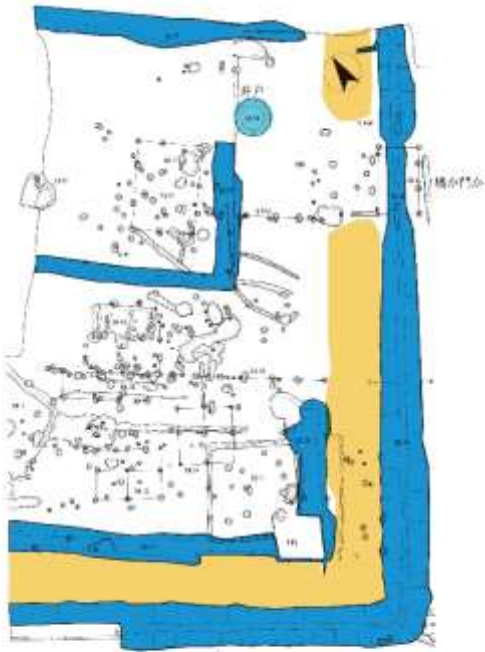
「電子地形図25000(国土地理院)を加工して作成」



・名張市では、中世城館の調査事例そのものは少数だが、天正伊賀乱最後の決戦地となり、本能寺

の変後の伊賀蜂起（第3次天正伊賀の乱ともされる）でも拠点となった赤目の柏原城や、神屋の北畠具親第、奈垣と下比奈知の下山甲斐守城、上小波田の桜町中将宅跡・瀧川氏城など伊賀を代表する有力中世城館が多数良好に残っている

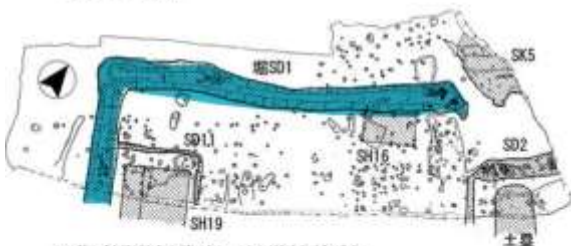
- ・中世城館の代表的な調査事例は、滝野氏城跡（別名滝野十郎城とも呼ばれる柏原城とは別の城）や観音寺遺跡、愛宕山砦がある。このうち愛宕山砦は、出土遺物が僅少であるが、鉄砲玉（鉛玉）も出土するなど極めて戦闘性の強い城館で、天正伊賀の乱で用いられたかもしれない。



II期(14世紀・南北朝)



III期(15世紀)



IV期(15世紀後半～16世紀前半)

徐々に進化する城の変遷を発見！  
滝野氏城跡





滝野氏城跡の発掘調査



発掘された愛宕山砦



出土した鉛玉

引用・参考文献

- ・奈良県立橿原考古学研究所 1989『奈良県山添村 大川遺跡』（山添村大川遺跡出土土器）
- ・伊賀市 2005『上野市史 考古編』（わき塚古墳出土遺物）、わき塚甲冑写真；伊賀市教委提供
- ・名張市 2010『名張市史資料編考古』
- ・三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター・名張市教育委員会・名張市遺跡調査会発行の発掘調査報告書